

学 位 論 文 要 旨

氏 名 祐 岡 武 志

題 目 世界史教育における内容編成論の研究  
— ESD（持続可能な開発のための教育）の観点からの再構成 —

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

本研究は、市民的資質の育成に向けた世界史を「市民性教育としての世界史教育」と位置付け、現代社会の諸課題の解決を指向した世界史教育内容編成を目指している。その観点を、より良い社会の形成を目指す教育理念として注目されるESDに求め、世界史教育をESDの観点から再編成することを提案する。そのため、関連する先行研究の分析から、ESDの観点を導入した世界史教育内容編成の論理を明らかにし、それに基づくカリキュラムを開発・提示する。そして、ESDの観点による世界史教育カリキュラム編成に基づく、単元を開発して授業実践をする。さらに、授業実践の分析から、市民性教育としての世界史教育内容編成の有効性を検証することを試みる。

そこで、本論文の第Ⅰ部では、現行の世界史教育の特質と意義を示すことで、世界史教育の現状を分析し、世界史教育の課題を明らかにする。そして、その課題を克服するため、改革を目指す市民性教育としての世界史教育の視座を提示するとともに、先行研究の類型化によって、世界史教育内容編成の意義と構想について言及する。さらに、ESDの目標を整理し、世界史教育改善のための視座を明らかにすることで、世界史教育内容編成論の方法を論じる。

第Ⅱ部では、ESDの観点を世界史に導入した先行事例であるグローバルラーニングのカリキュラムフレームワークを分析することで、市民性教育としての世界史教育のカリキュラム編成の原理と構成を論じるとともに、ESDの観点からの世界史教育カリキュラム編成を示す。そして、「現代の諸課題」に基づく世界史教育内容から、教材としての世界遺産の意義を論じることで、歴史の遡及的探究学習のあり方を示す。さらに、ESDの観点からの単元構成の枠組みと単元の展開に言及することで、ESDの観点からの世界史教育の授業構成論について論じる。

第Ⅲ部では、授業構成論に基づき、ESDの三領域「環境・経済・社会」に関わる具体的な単元開発を行う。まず、「環境」領域からの世界史教育内容開発として単元「近代日本の産業発展」を示す。次に、「経済」領域からの世界史教育内容開発として単元「産業革命とアフリカ」を示す。最後に、「社会」領域からの世界史教育内容開発として単元「中東世界の宗教対立」を提示する。さらに、ESDの観点からの学習評価と授業評価について論じ、3つの単元の授業評価を行う。これにより、ESDの観点からの世界史教育内容編成論の有効性を検証する。

上記の段階と方途に基づいて進めた本研究における主たる成果は、次の5点にまとめることができる。

1つは、現在の学習指導要領地理歴史科「世界史」の課題を分析し、改革を目指す世界史教育の原理を明らかにすることで、市民性教育としての世界史教育内容編成論の定義と方法を示したことである。

2つは、ESDの観点を世界史教育に導入する先行事例としてグローバルラーニングの事例集に着目し、そのカリキュラムフレームワークの分析から、ESDの観点を導入する世界史教育カリキュラム編成の原理と方法を明らかにしたことである。

3つは、先のカリキュラム編成の原理と構成に基づき、ESDの観点からの世界史教育カリキュラム編成を試案として示すとともに、「現代の諸課題」に基づく世界史教育内容から、教材としての世界遺産の意義を論じることで、歴史の遡及的探究学習のあり方を示したことである。

4つは、カリキュラム編成論に基づいた授業構成論から、ESDの三領域「環境・経済・社会」に関わる具体的な単元、「環境」領域の「近代日本の産業発展」、「経済」領域の「産業革命とアフリカ」、「社会」領域の「中東世界の宗教対立」を開発したことである。

5つは、「現代の諸課題」から導出した世界史教育内容に則し、ESDの「環境」「経済」「社会」の3つの領域に関わる単元の授業実践と分析から、学習評価と授業評価を行ったことである。

本研究では、ESDの観点からの世界史教育内容編成のあり方を、一つの試案として提案したが、それにはいくつかの課題がある。1つは、カリキュラムの開発にかかる課題で、提示したカリキュラム編成と授業構成が、あくまでも試案としての事例を示すにとどまり、その妥当性について十分な検討ができなかったことである。2つには、授業実践にかかる課題として、同じ生徒で全ての実践を行えなかったことである。そして、3つには、授業評価にかかる課題として、四象限の単元構成モデルに基づいた予想される生徒の解決策を、議論で深めることができなかったことである。

本研究では、それらの課題が示されたことで、結果として、以後の研究の方向性が明確になった。具体的には、ESDと世界史教育内容編成に関する論理、カリキュラム開発、単元開発及び授業の実践と学習評価・授業評価の研究を深めることで、本研究で提示した3つの単元の改善を進めるとともに、概要説明にとどめた残り3つの単元や、カリキュラム全体のまとめの単元の開発を行うことと、それらの授業実践と分析を行うことである。